とよみなみ

令和３年１２月２４日
豊玉南小学校たより
令和３年度　冬休み号

経験とかかわりの中で

副校長　彌永　英俊

「１・２・３・４・・・」校庭中のあちこちで響く声。豊玉南小学校で伝統となっている大なわ旬間の取組です。運動が得意な子もいれば苦手な子もいます。今年、やっと１回跳べた子、連続跳びがすごく上達した子、縄を回す役に立候補して一生懸命に縄を回した子とさまざまです。「できた！できた―！」という歓声。連続跳びができるようになった友達をクラスのみんなで称賛し、「できたじゃん」「おめでとう」「やったね」と自分のことのように喜んでいます。「はい・はい・はい・はい」「今・今・今・今」と縄に入るタイミングを教えてあげたり、躊躇する友達の背中を後押ししてあげたり、互いに助け合い励まし合いながら上達しています。「やった一新記録！」大きな歓声と拍手で盛り上がるクラス。惜しくも記録が伸びずに落ち込むクラス。こうした経験と友達とのかかわりの中で、子供たちは様々なことを感じ、考え、気付き、成長していきます。

さて、今年は感染状況の落ち着きと共に、様々な教育活動を再開してきました。全校での体育学習発表会、6年生の移動教室、5年生の音楽鑑賞教室、4年生の社会科見学、3年生の農家の見学（3学期には社会科見学にも出かける予定です）2年生のまちたんけん、1年生の幼稚園保育園交流、元気会活動や集会活動も実施しました。少しずつ教育活動の制限が緩和される中、子供たちが互いにかかわり合いながら経験の中で学ぶことが、いかに意義があり尊いことであるかということを改めて感じさせられています。

明日から始まる冬休みには、昔からの年末年始の行事、慣習があります。初めての経験をすることもあるのではないかと思います。「すす払い（大掃除）」「年越しそば」「除夜の鐘」「初日の出」「初夢」「七草粥」…。裏面に年末年始あれこれを掲載しました。子供たちにその由来や意味を話しながら、ご家族のかかわり合いを大切にして年末年始をごゆっくりお過ごしください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・それでは皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

１２月２９日（水）～１月３日（月）は、機械警備となります。
緊急時の学校への連絡は、　<u>０８０－７２４８－０８３８</u>　にお願いします。

１月の行事予定　　冬休み中の校庭開放、図書館開放はありません。

１日(土) 元日
７日(金) 冬季休業日終
８日(土) 集団登校始・始業式
　　土曜授業日（３時間授業）
　　情報モラル講習会（５年）
１０日(月) 成人の日
１１日(火) 給食始　計測（５・６年）
　　委員会活動　安全指導日
１２日(水) 計測（３・４年）・元気会（１組）
１３日(木) 計測（１・２年）・元気会（２組）
１４日(金) 元気会遊び（３組）
１７日(月) マラソン旬間始・補充教室
１８日(火) 校内書き初め展始
２０日(木) ５時間授業（全学年）
２１日(金) 避難訓練
２４日(月) クラブ活動
２７日(木) 展覧会準備（６年）
　　５時間授業（１～５年）
２８日(金) マラソン旬間・校内書き初め展終
３１日(月) 個人登校始

●１月８日（土）土曜授業日
学期始めのため授業は公開しません、。
始業式（8:30~9:00）・５年情報モラル講習会（9:40~11:30）を公開します。

●１月１８日（火）～２８日（金）校内書き初め展
15:30~17:00 にご覧いただけます。受付をすませてからお入りください。

年末年始あれこれ

すす払い

正月を迎えるにあたって、家の内外の煤（すす）や塵（ちり）を払い、清掃する行事。煤掃きともいいます。

平安時代にすでに行われていたといわれています。12 月 13 日に行うようになったのは江戸時代から。江戸城は 12 月 13 日が煤払い日で、民間でも多くが 13 日を煤払いの日としていました。

年越しそば

大晦日に年越しそばを食べるようになったのは江戸時代からです。

元々、江戸時代の商家では毎月 30 日（晦日・みそか）にそばを食べる習慣がありました。忙しい晦日は手早く簡単に食べられるようにということからだったようですが、それが大晦日に食べるものとして一般に広まったといわれています。始めはそば団子だったようですが、やがてそば切りを食べるようになりました。「そばのように細く長く長寿であるように」との願いが込められています。

そばはうどんなどと比べて切れやすいことから「一年の苦労や災いを断ち切る」という意味もあるようです。また、金細工の職人が作業場で散った金をそば粉の団子で取っていたことから、そばは金を集める＝金運を願うという説もあるとか。

初夢

一般的に、正月の２日の夜に見る夢のこと（２日から３日の夜に見る夢との説もあります）。 元々中国から伝わったもので、夢を食うといわれる獏の絵を枕の下に入れて吉夢をみようとしたという故事にあやかったものだそうです。

日本でも室町時代には、よい初夢が見られるように七福神を乗せた宝船の絵を枕の下に敷いたりしたそうです。

「一富士、二鷹、三なすび」の夢を見ると縁起がいいとされたのは江戸時代になってから。どうして元日の夜ではなく２日の夜なのでしょうか。昔は仕事始めや書き初めなど、年初めの行事が２日だったため、一年のスタートとして、２日に見る夢を重視したようです。

七草粥

７日の朝に「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」の七草が入ったかゆを食べて、その年一年の無病息災を願う風習。

元々は中国で毎年官吏昇進を１月７日に決めることから、その朝に薬草である若菜を食べて立身出世を願ったのが「七草がゆ」の始まり。これが日本に伝わり、平安時代には宮廷の儀式として七草がゆを食べるようになりました。

一般に定着したのは江戸時代。七種の若菜の生命力を吸収するとともに青菜の不足しがちな時期の古人の優れた知恵です。七草がゆは消化吸収がよく、正月のご馳走で疲れた胃腸を休め栄養補給をするという、実に理に叶った料理です。